

令和元年度～令和5年度観測研究計画

課題番号：IRID01

(1) 実施機関名：

東北大学災害科学国際研究所

(2) 研究課題（または観測項目）名：

東北地方における地震・津波・火山情報に関する歴史資料の所在調査とデータ収集

(3) 関連の深い建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

- (1) 地震・火山現象に関する史料・考古データ、地質データ等の収集と解析
ア. 史料の収集とデータベース化

(4) その他関連する建議の項目：

5 研究を推進するための体制の整備

- (2) 総合的研究
ウ. 千島海溝沿いの巨大地震

(5) 総合的研究との関連：

千島海溝沿いの巨大地震

(6) 平成30年度までの関連する研究成果（または観測実績）の概要：

平成25～30年度の「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」では、平成27年度地震・火山噴火の解明と予測に関する公募研究「岩手県沿岸で発生した地震・津波に関連する歴史情報の収集」および平成28年度同公募研究「旧気仙郡地域における歴史地震・津波に関する災害史料の収集とデータベース化」において、岩手県大船渡市・陸前高田市および釜石市唐丹地区など、かつて気仙郡と呼ばれた地域をフィールドとして、東日本大震災における個人所蔵の歴史資料に対する津波被害の状況について調査をした。この調査の過程で、旧吉浜村で明治三陸津波後に高台移転を実施した村長家に関する史料群や、旧唐丹村の村役場文書の存在が確認され、同地域の災害を含めた歴史について新たな史料群の存在を確認することができた。これらの結果から、東日本大震災の被災地となった東北地方太平洋沿岸をはじめとして、東北地方においては未調査の歴史資料や災害情報が数多く残されており、これらを調査・撮影を実施する必要があると考える。

(7) 本課題の5か年の到達目標：

本課題では、東北地方をフィールドとして『新収日本地震史料』や既存の自治体史に部分的に掲載されている災害関係史料の原本の所在を調査し、それらの所蔵機関・所蔵者を訪問して原本全体をデジタルカメラで撮影し、データを収集する。その際、災害史料単体ではなく、それらの史料が含まれる史料群に着目し、従来の災害研究では着目されなかった絵図・地図類や地域の開発や社会変遷が伺える記録類の情報も収集することにする。

新出史料の調査については、2011年の東日本大震災を受けて各地で被災史料の保全活動を実施している自治体や史料保全ネットワークなどと連携し、各地で展開している史料の保全活動と連携しながら、近年の調査で所在が判明した史料群における災害関連資料の有無を確認し、所在が確認された場合にはデータ撮影を実施する。

(8) 本課題の5か年計画の概要：

本課題の実施計画は、5年間の中で東北6県を全て網羅することとし、宮城県における史料所在調査および撮影は随時実施することとし、それ以外の5県については、各1年間をかけて集中的に調査を実施することにする。特に東日本大震災の被災地である地域を優先し、平成31年度においては岩手県、平成32年度においては福島県、平成33年度においては青森県、平成34年度においては山形県、平成35年度においては秋田県という順番で実施することを想定している。

(9) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

蝦名裕一、東北大学災害科学国際研究所、災害人文社会研究部門、准教授
他機関との共同研究の有無：無

(10) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等：東北大学災害科学国際研究所 災害文化アーカイブ研究分野
電話：022-752-2146
e-mail：zisin-yoti@irides.tohoku.ac.jp
URL：http://irides.tohoku.ac.jp/

(11) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：蝦名裕一
所属：東北大学災害科学国際研究所